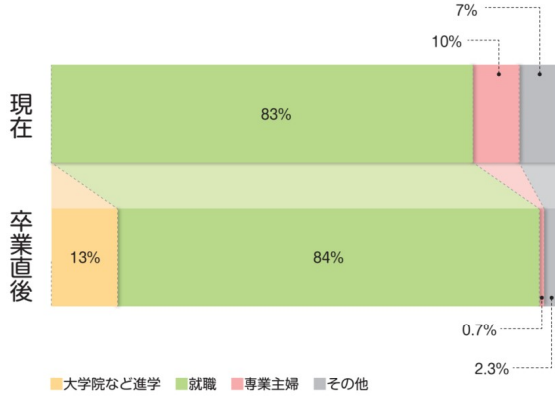




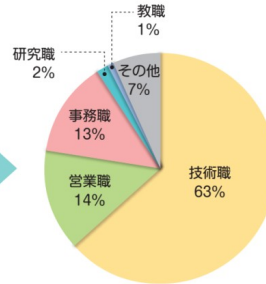
## 就職状況

卒業直後はもとより、現在も有職率が高く、様々な職種で活躍している卒業生たち。

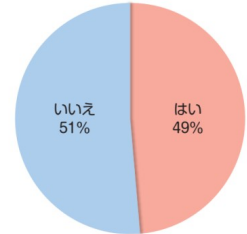
### Q1 就職等の状況は？



### Q1-1 卒業直後の就職先での職種は何ですか？

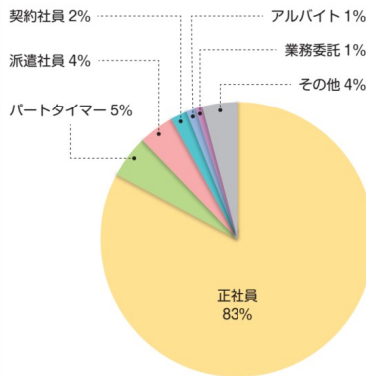


### Q2-5 卒業直後と現在で状況は変わっていますか？

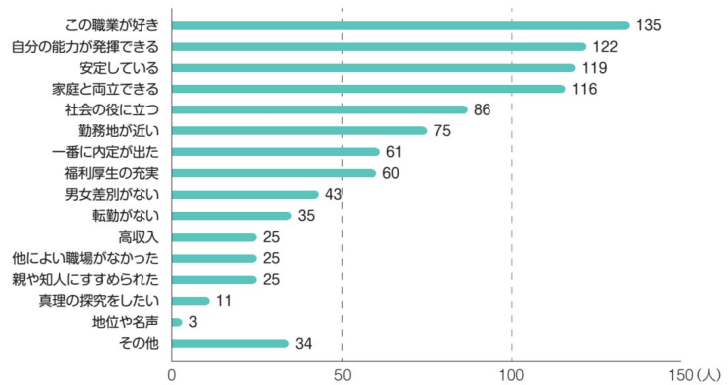


## 現在就職中の方

### Q2-4 現在の就職先での雇用形態は何ですか？



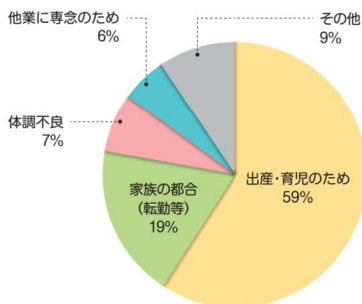
### Q2-6 現在の職種を選んだ理由を教えてください。(複数選択可)



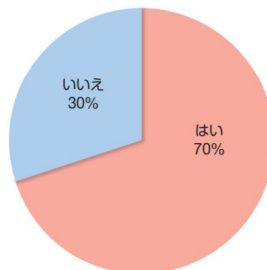
職業選択理由として「この職業が好き」、「自分の能力が発揮できる」が1位と2位になった。それに続くのが「安定している」、「家庭と両立できる」、「社会の役に立つ」である。

## 現在仕事をしていない方

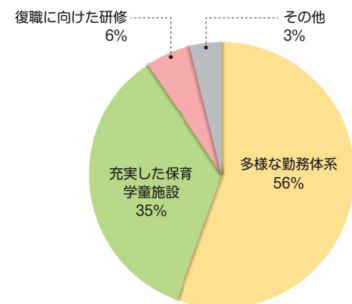
### Q2-1 離職された理由を教えてください。



### Q2-2 仕事には復帰したいですか？



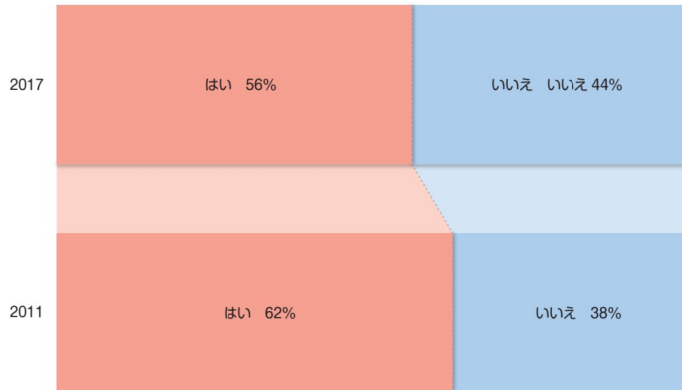
### Q2-3 どのようなサポートがあれば復帰したいですか？



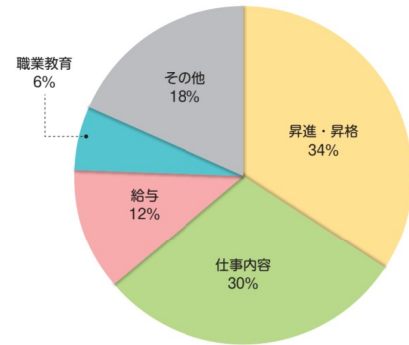
## ジェンダー

男女の差を感じたことがないという方から、男女の差を感じるという方まで様々。

### Q3 職場で男女の差について感じたことはありますか？

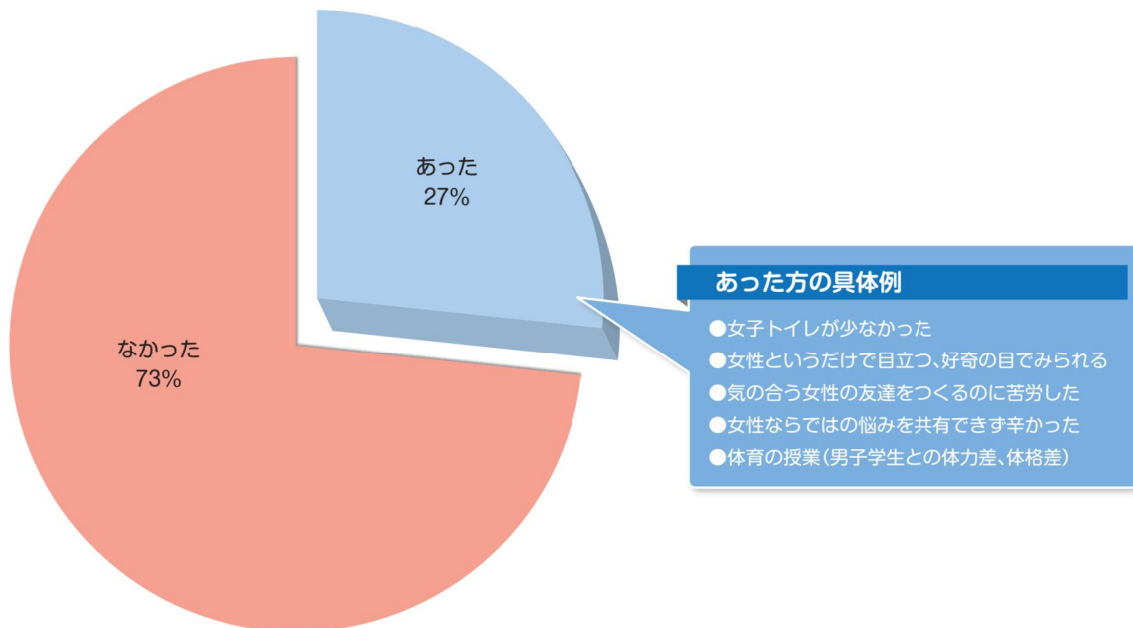


Q3-1 どのような点で男女差を感じましたか？



2017年は前回の調査(2011年)に比べ、職場で男女の差について感じたことがあるとの回答が大きく減少した。女性を取り巻く社会全体の意識が変わってきたことがうかがえる。

### Q13 学生時代、男性の多い環境で困ったことはありましたか？



#### 話題の用語

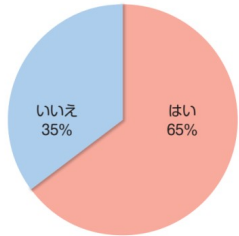
#### 《アンコンシャス・バイアス》を知っていますか？

「無意識の偏見」「無意識の思い込み」と訳される誰もが潜在的に持つバイアス(偏見)のこと。過去の経験や習慣、環境などから知らず知らずのうちに身につけて自覚ができないため、自制することが難しいともいわれ、無意識ゆえに根深い問題として、近年注目されています。

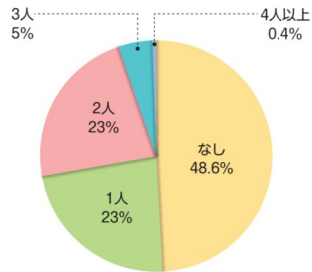
# ライフイベント

仕事とプライベートを両立させるために、ライフイベントに合わせた多様な働き方、まさに「働き方改革」が求められている。

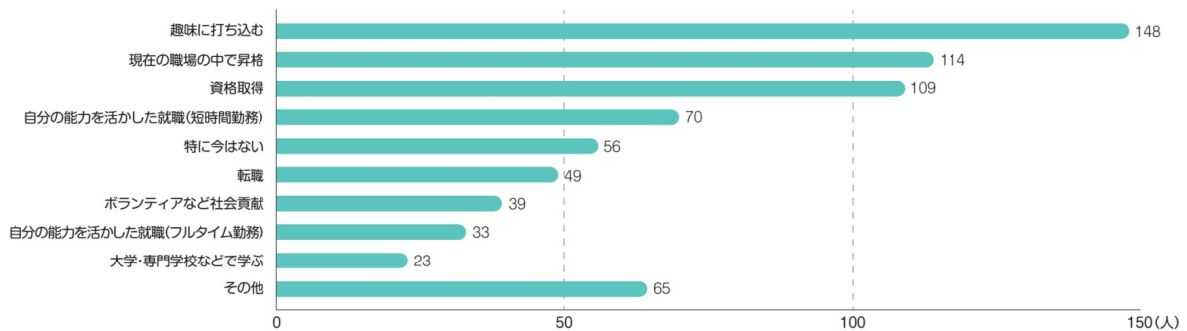
Q7 配偶者(パートナー)はいらっしゃいますか？



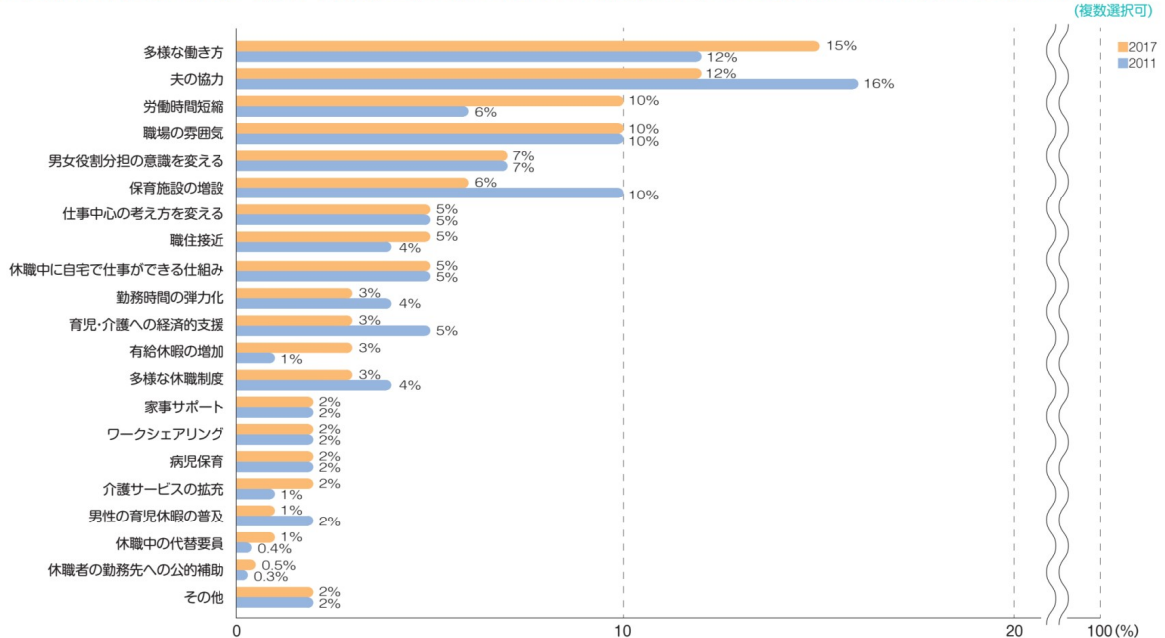
Q8 お子さんの人数を教えてください



Q10 今やりたいことは何ですか？ (複数選択可)



Q6 女性の「仕事・家事・育児・介護」と「自分のための時間」の両立に必要なことは何だと思いませんか？ (複数選択可)

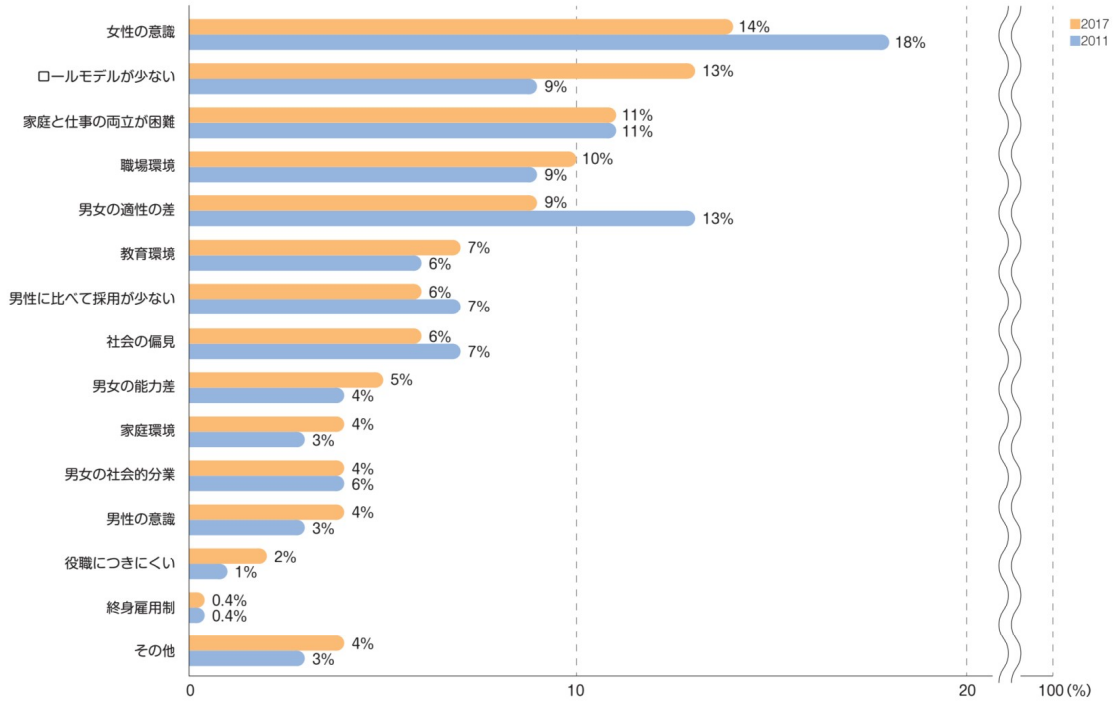


前回アンケートで1位だった「夫の協力」が2位に後退し、今回の1位には「多様な働き方」が上昇した。また、注目すべきは「労働時間短縮」の大幅なポイントアップだ。労働時間が長いと感じている女性が増えている。仕事と生活の調和を図る上で、労働時間の在り方、多様な働き方が重要な課題である。

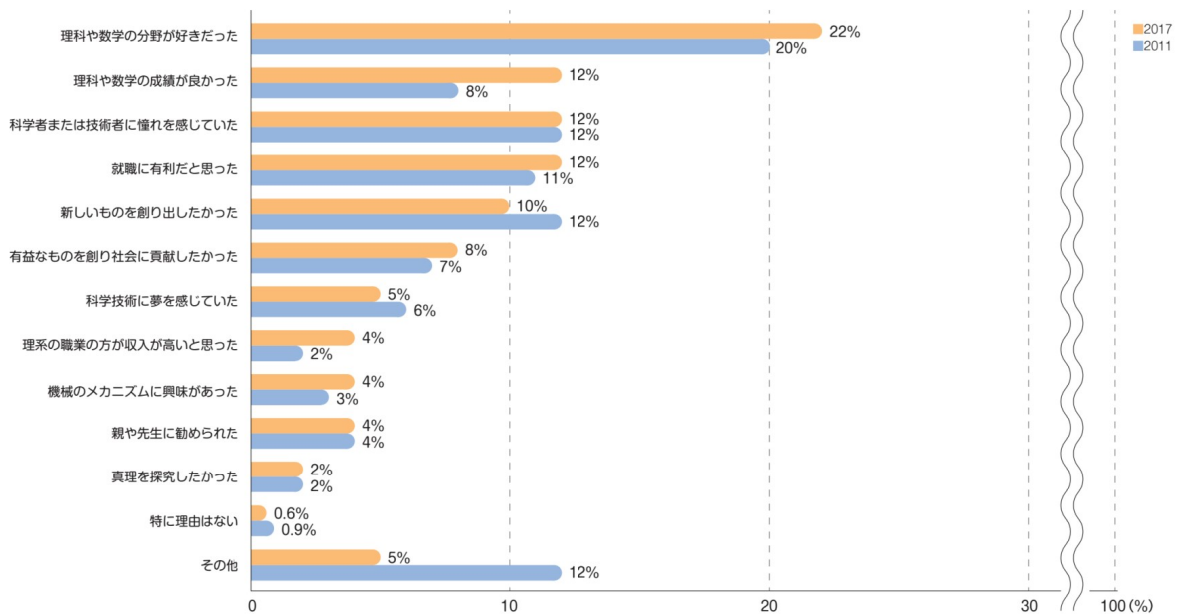
## 理工系を増やす取り組み

日本で働く理工系女性は約15%。欧米諸国の半分以下という現状を踏まえ、現在、政府も理工系女子の育成に力を入れている。東京都市大学でも、理工系分野で活躍できる女性を増やすため、女子学生の活動を支援している。

### Q11 理工系分野に女性が少ない理由は何だと思いますか？ (複数選択可)



### Q12 工学系の大学を選んだ理由は何ですか？ (複数選択可)

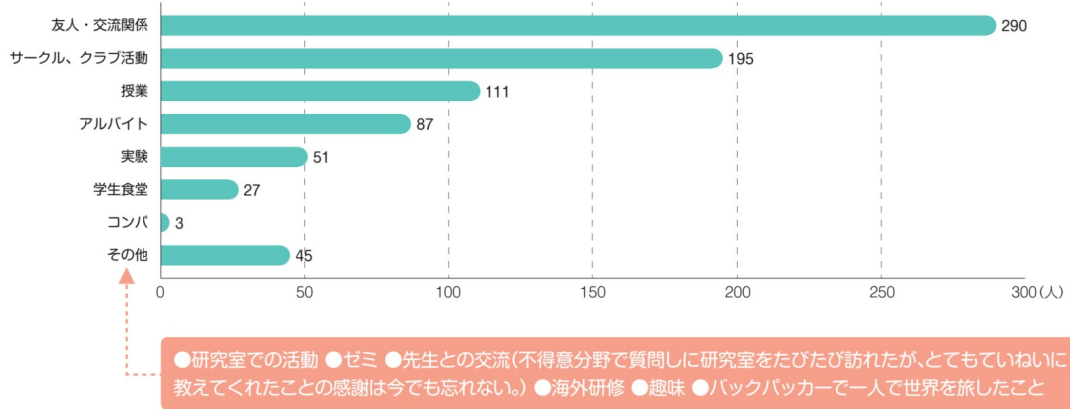


前回と同様、「理科や数学の分野が好きだった」が圧倒的である。また、「理科や数学の成績が良かった」という理由が増える一方、夢や憧れという理由が減少し、より現実的な傾向が見えた。

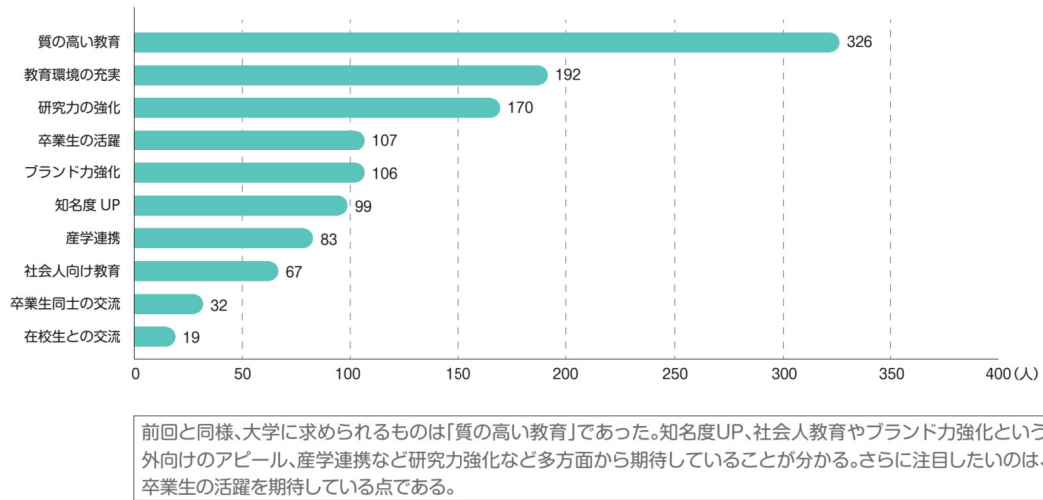
## 大学生活を振り返って

友人との交流やサークル活動が楽しかった大学生活。大学に求めるのは原点である教育である。

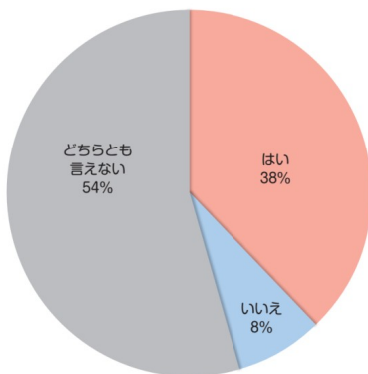
### Q14 大学時代楽しかったことは何ですか？ (複数選択可)



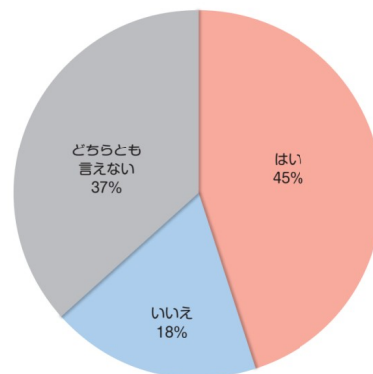
### Q15 大学に期待することは何ですか？ (複数選択可)



### Q16 卒業生同士のコミュニティは必要だと思いますか？



### Q17 大学の中に転職・再就職のためのキャリア支援をするシステムがあれば活用してみたいと思いますか？



# コメント欄

アンケートにご協力いただいた皆様より、貴重なご意見を頂戴しました。一部抜粋してご紹介させていただきます。ぜひ一読ください。(原文ママ)

学生時代も社会人になってからも女性が少ない環境で困ったことはほとんどありません。就職先にも大学OBが多く、とても働きやすいです。今後もタテ、ヨコの繋がりを大切に学校の姿勢を続けていっていただきたいです。この学校の卒業生で本当に良かったと思っています。(20代)

私が当時高校生のころは、学問が将来どんな道(就職or研究)につながるかがイメージしにくかったので物理がニガテで、そこであきらめる女子が多かったかなと思います。なりたいイメージが明確であれば苦手な分野の学問でも頑張る女子が増えるのではないかなと思います(全体的にみて女子は男子よりも物理がニガテ傾向にあるなあと思いました。)(20代)

情報メディア学科で学んだことは、とても今でも役立っています。(プレゼン技法やリテラシーetc)(20代)

女性の管理職を増やす動きがあるので、昇格しやすい環境ですが、育児との両立が難しく男性と同等に働くのはきびしいです。(30代)

転職を考える際に大学からのアドバイスを頂けたら今後に期待できますし、もし、システムがあったら利用したいと思います。(30代)

気づけば卒業後16年経っていました。就活時に受けた適性試験上位の仕事に今偶然つき、満足しています。この様な形で母校に少しでも貢献できるならありがたいと思います。「女性の参画」の為に、社会的サポートのみならず私を含め、女性の意識向上も必要と思います。(男性の協力も)(30代)

私は機械系出身ですが現在は医療系の職種についています。工学系同士のつながりは多少あるのですが、まったく異なった職種についてた方はなかなか知り合うことができません。例えば、女性メインの同窓会のようなものがあると良いと思います。(30代)

女性で大学院行くかどうかは、ライフプランを含めて検討し始めてあげてほしい。ただ、文系よりも技術系職に就職することは、産休育休後の復帰など女性が継続して仕事をすることができると感じる。また、育児でも自分で仕事の時間を配分できることも強み。上記の認識があまり浸透していないように感じる。その分、女性だからと免除してもらおうのではなく、時間的余裕がある男性よりも仕事に対しての責任感や細やかな対応を心掛ける必要がある。特許教育や海外のベンチマークを学生時代に経験出来ると他大学との差別化は出来ると感じる。(30代)

能力の高い女性技術者が育児を理由に離職するのを何人も見ました。気を長く、ライフワークとして働き続けるため、男性の意識を変えることが大切だと思います。(30代)

理工系に女性を増やす取り組み、とありますが、育つ段階での影響も大きく、また適性の問題も大きいです。大学に女性学生が増えても必ずしも男性社会の技術系へ進んでくれるわけではなく、進んでくれたとしても耐性が弱く、女性の多い部署へ異動してしまいます。男女関係なく肩を並べ必要な主張は出来、女性であることを強みとして転換できる学生を育てて下さい。武蔵工時代の方が骨太な学生であった印象です。(30代)

私が在学中に、卒業された女性の先輩の講演または交流があったらもっと将来を描きやすかったかなと思います。他大学では、そういったパンフレットを作成していました。研究室のつながりが強い理工系にはあてはまらないかもしれませんが…。(30代)

私は職場で女性だから損をした、不利だったということはないです。ただ、育児などをしやすい環境ではないと思っていますので、男女の差というよりも、男性も女性も働きながら子育てできる環境が実現できると良いと思います。(30代)

子供ができて仕事も続ける気でしたが、妊娠、子育てと仕事の両立は思いの外ハードだった。今思えば、気兼ねなく会社に申告してみれば良かった。(30代)

私は工学部に行くこと決めたときも、行っているときも困ったことは一切無いし、現職でも(外資の調査会社です)、女性の方が活躍している会社なので、あえて女性支援をした方がいいとは考えていません。結局、本人のやる気、意識次第では？家族に反対されたから工学部行かないとか、男の目が気になるかというレベルの人が工学部に行っても、理系就職しても、続かないと思います。(40代)

男性の多い組織にいますが、学生時代から男性ばかりだったので、あまり困りませんでした。しかし、学生時代の男性はみな優しくなりましたが、社会に出てからの男性は決して優しくなかったのが、女性が男性と同じように働くのは難しいと感じました。現在は我が組織も男女共同参画専門の部署ができ、また、自身も管理職となり環境の変化を実感しています。(40代)

私は学部卒で通信事業者に就職しました。最初は情報システム部に配属されシステム開発にもたずさわりましたが、現在はカスタマーサービス部でデータ集計などを行っています。工学部で学んだ知識を生かせる結果になっていないのですが、通信の基礎を学べたことは社会人になってからもプラスになったと思っています。最近では女性の昇格も前向きに取り組みがされています。(40代)

仕事で成果を出しても、「女性なのに、よくできた」というような感じで言われることが多くあります。(男女適性関係のない職務内容で)一部、男性優位主義の方がいることに違和感を覚えることがあります。(40代)

最初に入学した時、当時の教授が電気回路は女には理解できないといわれた。全く驚きである。今時そんな事を学生にいう先生はいないし信じたいが先生の質の低さも問題を感じた。バランスの取れたいい教育を実施してほしい。卒業後他大に移ったが差を感じている。(40代)

アンケート全般に女性が社会で現状に不満をもって冷遇されていることを前提につくられていて違和感を感じました。きちんと努力しきちんと評価され頑張っている人もいます。キャリアがのびないことの原因を他者や世の中に求める姿勢の人は、その姿勢をあらためることから始めるといういろいろ変わることもあると思うのですが、こういうアンケートではその姿勢を助長するように感じました。

理系に女性が少ない理由も進学時点で理数系の学科を苦手にする女性が多いからで理系職種から女性が遠ざけられているからだとあまり思いません。

ですから、根本の理由で子供たちに(男女かわらず)広く理数系を楽しく学ばせる教育が充実すれば理系に女性も増えるでしょうし、増えれば女性をうけいれる企業の努力も深まると思います。(40代)

私は全く違う分野で起業して仕事をしていますがアンケートの内容が「雇用」が前提で少し残念です。理工系を卒業している女性の中には他にも起業している人もいると思うので質問の内容もそれを含めた形で頂けると嬉しいです。(50代)

ライフステージの変化に合わせて、何度も転職していますが、ブランクなく働いているのは、実力があるからだだと思います。大学には質の高い教育を提供し、力のある学生を育成してほしい。先に人気ではありません。また現在の職場は男女差でなく職種で契約形態賃金などを区別しています。「男女の別という捉え方も変化しているのではないのでしょうか。その点からアンケート設問が古い感じがありました。(50代)

理工系に女性を増やす取り組みを進めているとありますが、無理に増やそうすることはやめてほしいです。(数値目標を掲げる、基準を変える等)そういうことをすると、本来適性のない人まで含むことになり、首をしめる結果になると思います。ただ、偏見は相変わらずあるので、偏見をなくす取り組みはして頂きたいです。「女なのに珍しいね」私はそう言われ続けてきたこと、うんざりしました。(50代)

日本全体の問題 男と女の意識改革(50代)

女性を雇用しても、結婚、出産、夫の事情などでやめていってしまう。折角、手取り足取り教えても上記の理由であっさりやめていく。大学院まで出たのに最初のお見合いで歯医者さんと結婚、専業主婦になった人もいた。(60代)

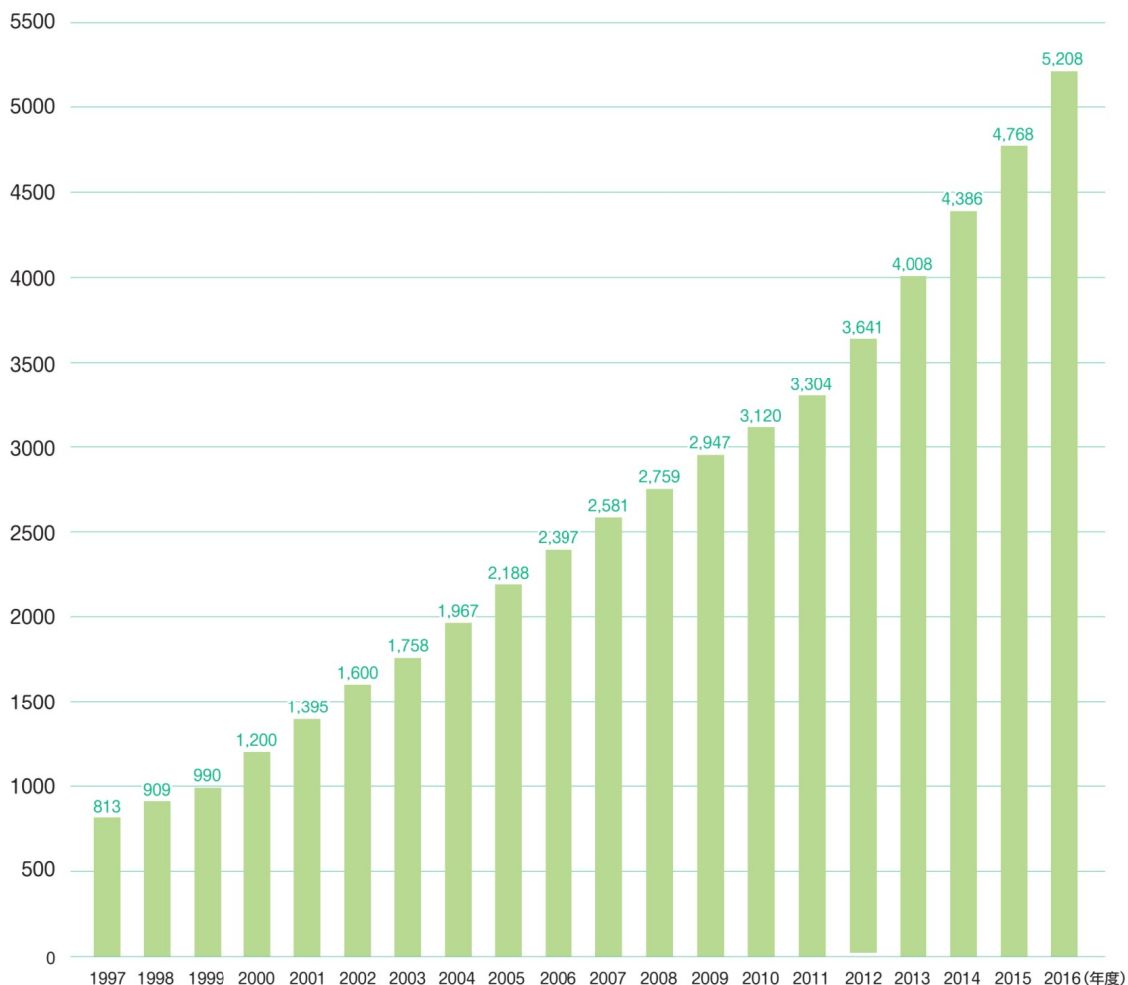
自分には出来なかった事、若い方々のご活躍、期待しております。(70代)

設問がすでになりたい形があるという感じがします。もっと自由に仕事を作る事も出来ると思います。女性が大会社で就職に就くのは大変なこと。私の小、中、高、大学時代の友人で大会社の役員にいる人は(2年前の事で今はどうかわかりませんが)一人しか知りません。学校時代特別な人とは思っていませんでしたが、今、話をすると立派な人です。(80代)

## 女性卒業生の推移

女性卒業生数  
累計(人)

女性卒業生は1997年当時に比べ、2016年度までに6.4倍に増加し、総数5,208名の女性を社会に送り出しています。



※2009年4月に、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し、東京都市大学となりましたが、本表には、東横学園女子短期大学の卒業生を含みます。

### 室長挨拶

女性卒業生アンケートは、第一回を2011年に実施し、今回で二回目となります。  
卒業生の皆様には、アンケートにご協力いただき、心からお礼申し上げます。  
21世紀の日本は、「人口減少」「高齢化」「労働者不足」など課題の多い社会です。  
そういった社会に、数多くの若者を輩出していく大学は、女性を含めた多様な属性の違いを理解し、  
個々の人材の能力を最大限に引き出す取り組みをしていかなければならないと考えています。  
本アンケートの結果は先を歩いている先輩たちの声として、男女の区別なく学生たちに伝えて  
いこうと思っております。



男女共同参画室  
室長 岡田 往子



東京都市大学 男女共同参画室 (世田谷キャンパス 2号館 2F)

東京都世田谷区玉堤1-28-1

TEL.03-5707-0104 FAX.03-5707-1289 E-mail:sankaku@tcu.ac.jp

http://www.sankaku.tcu.ac.jp https://www.facebook.com/sankaku.tcu

東京都市大学  
TOKYO CITY UNIVERSITY